



『安売りするな! 価値を売れ!』

藤村 正宏

日本経済新聞出版社 ¥1,400

安売りから脱却し、独自の価値を見つけ 繁盛する会社を作りたい経営者 にオススメ!

オススメ
No.1!

著者の藤村正宏先生との出会いが無ければ“日本で唯一の経営者専門のスーツ仕立て屋”イルサルトは誕生しませんでした。藤村先生に出会ったのは2008年、その頃私は父の経営する会社で働いていて、“売上を上げることが会社の目的であり、規模こそが正義である”と信じて疑いませんでした。そんな私に藤村先生はこう言いました“売上を上げることが会社経営する目的だなんて寂しくない? 仕事をする目的は自分の仕事を通して愛を届けることだよ、好きなことを仕事に取り入れることを考えてみたら”最初は綺麗事100%にしか聞かえなく、ビジネスの現場はそんなじゃ通用するわけないわ! そう思っていたのですが、藤村先生の話聞き続けていく中でそんな私にも少しずつですが変化が現れました。そして自分の一番好きなメンズの洋服を仕事に取り入れた結果、仕事をする目的や考え方が少しずつ変化し、イルサルトの立ち上げにつながり私の人生が劇変したのです。藤村先生の考え方は、エクスペリエンスマーケティング(略してエクスマ)と呼ばれていて、物やサービス自体を売るのはなく、物やサービスを通してお客様に何を届けるのか? を“体験を売る”という視点をまず明確に持つことが大切だというものです。この本の中では、体験を売る視点はどの様に持てばよいのか? という基本的な考え方。そしてこのSNS全盛時代にどの様に価値を伝えファンを作り繁盛していくのか? 安売りせずに価値を売る事例が沢山掲載されています。

スタッフの個性を生かした人材活用をしたい経営者 にオススメ!

この本を読んでから、イルサルト内の雰囲気は劇的に良くなりました! もっと正しい言い方をすると私自身がスタッフの池田と植木の価値がどこにあるのか? がはっきりと分かる様になったのです。この本を読むまでの私は、“人との違いは間違い”自分と他人の差があるのは頭では漠然と分かりながらも、その価値をなかなか認めることが出来ませんでした。しかしこの本を読んでからは“人との間違いは価値”であり、イルサルトの価値を更に大きくする為の“伸びしろ”でしか無いことが理解出来て、スタッフへの接し方が大きく変わりました。この本は人間のタイプをオランウータン・チンパンジー・ゴリラ・ポノボの四つの類人猿に分類しているのですが、簡単に言うと仕事のプロセスを認めてもらいたいタイプ・その人自身にスポットライトを当ててほしいタイプ・自分自身の活躍よりもチーム全体の調和を喜ぶタイプ・仕事の成果よりも場の空気や喜びといった感情を大切にしたいタイプの四つに分けられます。それぞれのタイプのスタッフにどういった仕事をさせるのが良いのか? どのように接することでよりモチベーション高く働くようになるのか? が具体的に書かれている実践的な本です。



『人間関係に必要な知恵は すべて類人猿に学んだ』

類人猿分類公式マニュアル2.0

夜間飛行 ¥1,600

スタッフのモチベーションを上げ スタッフが自ら動く組織を作りたい経営者 にオススメ!



『1分間エンパワーメント』 人と組織が生まれ変わる3つの秘策

ダイヤモンド社 ¥1,400

今までに最も読み返したと言っても過言ではないくらい何回も読んだ一冊です。組織の段階は、第一段階の“依存”、第二段階の“独立”、第三段階の“エンパワーメント”と発展していくのが理想なのですが、残念ながら多くの組織は第二段階で止まってしまいます。以前であればそれで良かったのですが、変化の激しいこの時代ではスタッフ一人一人が責任感を持ち、自ら考え、自ら動くことが出来るのかどうか? このエンパワーメントの第三段階に進めるのかどうか? が企業の盛衰を左右すると言っても過言ではありません。エンパワーメントが実践されている組織では、スタッフはベストのアイデアを出し進んで仕事をする様になります。仕事に喜びを感じ、会社は自分のものという意識を持ち、誇りを持って仕事をする様になるからです。更にまず組織の利益を優先した上で、責任ある行動を取る様になります。私はこの本を読んで組織に対する考え方が180度変わり、イルサルトも第三段階のエンパワーメントを本気で目指すことを決めました。エンパワーメントとは何か? そしてどの様にその段階に持っていくのか? が分かる実務的な手引書です。この本は幻の名著と言われ現在絶版になっておりヤフオクで数万円の値段がついているのですが、新版がこちらになります。

※社員の力で最高のチームをつくる(新版)1分間エンパワーメント ダイヤモンド社

どこに行っても恥ずかしくない作法を学び 男っぷりをあげたい経営者 にオススメ!

男性の美学
とは?

私はこの本を読んで初めてお刺身の食べ方を知りました。それまではわさびを醤油に溶いて食べていたのですが、お刺身にわさびを少し乗せて食べるようになったのです。それはこの本の中にこうあったからでした『お刺身を食べる時に、たいていの人にはわさびを取ってお醤油で溶いちゃうだろう。あれはつまらないよ。刺身の上にわさびをちょっと乗せて、それにお醤油をちょっとつけて食べればいいんだ。そうしないとわさびの香りが抜けちゃう。醤油も濁って新鮮でなくなるしね』この本の中で書かれていることは池波正太郎さんの時代には“男の常識”とされていたことばかりです。しかし時代の変化と共にその常識も変化をしています。今の男性には実行不可能なことも中にはあるのですが、“粋な男性”とはどうあるべきか? “男性の美学とは何か?” 又時代が変わったとしても変えてはいけない普遍的なものも沢山書かれています。食べ物のお話でいえば先ほどのお刺身の食べ方の他にお寿司屋さんのルール、天ぷら、お蕎麦、お肉の食べ方、お酒の飲み方、服や靴、ネクタイの選び方、人事、組織、日記、贈り物、家具、その他様々な所作についても豊富な人生経験に基づいた“時代を超えた男の常識”や“男の生き方”を説いた指南書です。



『男の作法』 池波 正太郎

新潮文庫 ¥490